

早稲田大学 人文研「行動・社会・文化に関する多角的アプローチ」主催

心理学セミナーシリーズ

2025 / 1 / 17 (金) 16:00 ~ 17:00

36号館 682 教室 + オンライン開催 (zoom)

赤外光レーザーを用いた イヤホン型人工内耳の開発を目指して



玉井 湧太

Eberhard Karl University of Tübingen/ 慶應義塾大学
Otolaryngology/ 文学部 心理学専攻
学振特別研究員 (PD)

現在、世界の全人口の約 20% にあたる 15 億人以上が中軽度の難聴を持っており、そのうち約 4 億 3000 万人（全人口の 5% 以上）が重度の聴覚障害を持っています。近年では、ポータブルオーディオデバイスの普及により若者の難聴リスクが上昇しており、13 歳から 35 歳の若者の約 50% にあたる 11 億人が難聴の危機にさらされています。そのため、聴覚障害に対して適切な処置を講じなければ、2050 年には重度の難聴者が世界人口の 10 人に 1 人、すなわち 7 億人に達すると推定されています。難聴者の聴力を再建する方法として、補聴器や人工内耳の装用が広く用いられていますが、補聴能力や音質の制限、装用に伴う外科手術の侵襲性などがこれらの聴覚補助具の問題点として挙げられています。本講演では、補聴器や人工内耳の概要と問題点に加え、私が研究開発に取り組んでいる赤外光レーザーを用いたイヤホン型人工内耳の神経科学的基盤に関する音響心理学および聴覚生理学的研究について紹介します。

▼参加登録▼

終了後には懇親会も予定していますので、お気軽にご参加ください。
zoom 聴講を希望される方は、事前に右の QR コードから参加登録をお願いします。

後日、参加用リンクをお送りします。

問い合わせ先：田中 雅史
masashitanaka@waseda.jp

